

秋の三登山トレッキング大盛況!!

11月6日(日)、紅葉が映える晴天の中、秋の三登山トレッキングを開催しました。ここ2~3年はコロナ禍のためか30数名という参加人数でしたが、久しぶりに50名を超え75名の方に参加していただきました。

マスクの着用と距離を確保した行動ができるよう、隊を3隊に分け、若槻支所を午前8時に出発、蚊里田八幡宮から中道を通り、アンテナからのビューポイントでは、南は八ヶ岳連峰、美ヶ原高原、東は菅平から志賀の紅葉に染まった



山々と善光寺平が良く眺められました。三登山山頂には午前11時に到着し、その後山千寺方面へと下り12時に山千寺に到着、山千寺からの眺望を楽しみながら昼食をとり、12時40分に山千寺を出発、笠松地藏さんを通り13時30分に支所に到着しました。

空も澄み渡り、紅葉の間からの木漏れ日が木々に映え、怪我など

事故も無く皆さんに秋の三登山を楽しんでいただき、とても良い一日を過ごすことが出来ました。ご参加いただいた皆さま有難うございました。(三登山トレッキングコース愛護会)

人権に関する 作文発表 (徳間小学校)



コミわかでは人権教育・啓発活動として、小中学校の生徒さんに人権に関する作文を寄稿していただいています。今回は徳間小学校6年生の作文2点をご紹介します。この機会にご家庭内で人権について話し合ってみてはいかがでしょうか。(人権教育部会)

「勇気から始まる助け合い」 徳間小六年 松宇 直哉



ぼくのお母さんは、いつも「困っている人がいたら助けなさい」と教えてくれました。

以前お母さんがスーパーで車イスから転落したおじいさんを助けた所を見たことがあります。最初は、なんで助けたのか分からなかったけど、今はよく分かります。手を差し伸べてくれる人がいることで助かる人がいるからです。それを見てぼくも学校で困っている人がいたら助けたいと思いました。この間、低学年がけがをしてしまったときに「大丈夫?」などの声をかけて保健室につれていくことがありました。声をかけるには勇気がいりましたが、困っている人を助けることができ、ぼくも安心することができました。そして、助けた後に「ありがとう」などと言われると「また困っている人を助けるぞ」という気持ちが高まっていきます。

友達以外にも、高齢者や障害を持つ人を助けることができます。最近ニュースで外見からはわからない援助や配りよを必要としていることを知らせる「ヘルプマーク」があるということを知りました。その人にとってそれを表示することは勇気のいることだということを知りました。だからぼくたちがヘルプマークの意味を理解し広めていき勇気を出すことで、たとえ小さなことでも力になることができるかもしれないし、周りにいる人に助けを求められることができるかもしれないと思いました。

助け合いの差別をしてはいけません。知らない人だから、苦手な人だからという自分勝手な考えで助けることを諦めるのは違うと思います。もし、その時助けなかったら次に自分が助けを求めているときに誰も助けてくれない可能性があるからです。お互いの勇気がお互いを助けることにつながっているのだと思いました。僕も困っている人を見かけたら勇気を出して声をかけてみたいです。

「言葉の力」 徳間小六年 水津 晃大



言葉には、人を突き動かす力があります。「がんばれ」などの前向きな言葉を言われると、「がんばりたいな」と思えて、実際にがんばることが出来ます。逆に、悪口などのいや言葉を言われると、いやな気持ちになってしまいます。それを使って、いやな言葉を相手に言い続ける、言葉によるいじめをして、そのいじめを受けていた人が自殺してしまった、ということ、ニュースや新聞などではよく取り上げられています。中には、そのいじめを止めようとした人に標的が移って、いじめられてしまうということもあることを知って、とてもショックを受けました。

ぼくは、自分が友達に対していやなことを言っていないか、自分の言動を振り返ってみました。傷つけよう、悲しませようと思って言ったことはなかったけど、冗談でも、相手は傷ついたり、悲しんだりしたかもしれないことを言ってしまったことがありました。その時は面白いと思って言っていたけど、後から考えてみると、「傷つけちゃったかもしれない」と思いました。それなら率直にあやまればよかったのに、自分の中で言い訳をして、それができませんでした。そんな後悔がこれからの生活にないように、冗談でも悪口も暴言も使わず、相手を傷つけてしまったかも、というときにはすぐにあやまることにしようと決めました。

言葉というものは、自由に自分の思っていることや、相手にやってほしいことを伝えられたりと、とても便利なものですが、使い方を間ちがえれば、自殺のトリガーになったりと、恐ろしいものに姿を変えることもあります。なので、相手や自分も幸せになれる様に、これからも言葉を使っていこうと思います。